



熊本再春医療センター医療連携室だより



再春

令和5年 第1号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春医療センター
編集：地域医療連携室

KUMAMOTO SAISHUN MEDICAL CENTER

熊本再春医療センターホームページ <https://saishun.hosp.go.jp/>



御代志駅モニュメント

熊本電鉄御代志駅が移転しました。そこからの当院の写真です。今後、周辺が整備されて、大きく変わっていく予定です。

病院の理念

思いやりの心で
患者、地域、職員に愛される病院

病院運営の基本方針

1. 治し、支える医療の実践
2. 専門医療の推進
3. チーム医療の実践
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定
6. 働きがいのある職場作り

Contents

1. 院長あいさつ 2
2. 第76回国立病院総合医学会の発表を終えて 3
3. 病棟・部門紹介【南2病棟】 4
4. 開放型病院登録医紹介【橋本整形外科内科】 4
5. 病棟・部門紹介【治験管理室】 5
6. 開放型病院登録医紹介【西村クリニック】 5
7. 看護実践力向上推進委員会の活動について 6
8. 診療科紹介【消化器外科】 7
9. 新しい駅が完成しました 8



新年のご挨拶

病院長 上山 秀嗣

新年あけましておめでとうございます。
令和5年の新春を迎え、みなさまには
当院に対して暖かいご支援とご協力をいた
だき厚く御礼申し上げます。

今年の干支は卯年です。卯(うさぎ)は
その跳び姿から「飛躍」、「向上」を象徴する
動物として親しまれてきました。今年こそ
はポストコロナ時代に向けて皆さんとともに
医療の「飛躍」の年にしたいと願っています。

令和4年10月7日(金)、8日(土)の
2日間にわたり「第76回国立病院総合医
学会」が熊本市で開催されました。会長は
熊本医療センターの高橋院長、副会長は
九州医療センターの森田院長と当院の上山
が担当しました。会場は熊本城ホールを
中心として、熊本市民会館シアーズホーム
夢ホール、熊本市国際交流会館の近接する
3ヶ所を使用しました。本医学会は国立病院
機構、ナショナルセンター、ハンセン病療
養施設の職員が年1回全国持ち回りで開催
する多職種合同の学会で、今回熊本県での
初めての開催となりました。コロナ禍の
ため過去2年は全面WEB開催であったこ
とを受け、3年ぶりの対面方式による現地
開催を目指してスタッフ一同準備して参り
ましたが、無事開催できて安堵しています。
学会のテーマは『Branding, Presence,
Marketing ~選ばれるためには~』でし
た。国立病院、国立病院機構のブランド力、
プレゼンス力を高めるための様々な講演や

シンポジウムが企画され、特別講演2題、
基調講演2題、教育講演2題、シンポジウ
ム42題、パネルディスカッション15題、
および一般演題1,700題余りと、例年とは
ほぼ同規模で発表が行われ活発な討論と意見
交換がなされました。参加総数は約4,800
人で、コロナ禍とは思えない程の盛況で
した。

令和3年3月に着工されました熊本電気
鉄道「再春医療センター前駅」の移設工事は
令和4年10月10日に完成し、当日は新た
な御代志駅広場において熊本電気鉄道株式
会社と合志市による駅開業式典が執り行わ
れました。駅と病院建物との距離が一層近
くなり、当院に電車で通院される患者さん
や通勤している職員にとっては大変便利に
なりました。熊本電気鉄道株式会社と合志
市には深く感謝申し上げます。駅は
完成しましたが、病院前の道路工事等は来
年度末まで継続し、ご来院の際にう回路を
通る必要が有りますので大変ご迷惑をおか
けしますが、何卒ご了承の程お願い申し上
げます。

当院は熊本県における地域医療支援病院、
難病診療分野別拠点病院、県指定がん診療
連携拠点病院、地域医療連携拠点病院とし
て責任ある地域医療への貢献に努めてまい
りますので、皆様には今後とも変わらぬご
支援とご指導を賜りますようお願い申し上
げます。

第76回国立病院総合医学会の 発表を終えて

看護師 吉峰 代祐



令和4年10月7～8日、第76回国立病院総合医学会が開催されました。熊本市の熊本城ホール他3会場にて、コロナ禍ではありましたが3年ぶりの対面式の現地開催で5,000名弱の参加がありました。学会テーマ「Branding、Presence、Marketing～選ばれるためには～」のもと、さまざまな講演、シンポジウム、口演、ポスターセッション等、約1,700題の発表で活発な意見交換や討議が行われました。



私は、本学会で「気管切開患者への「発声補助装置」を活用したコミュニケーション」というシンポジウムにシンポジストの1人として参加し、「発声補助装置を用いた気管切開患者に対する発声への試み—療養生活の質の向上のために—」というテーマで、発声補助装置の導入事例について発表しました。

神経筋難病患者は呼吸障害により気管切開術と人工呼吸器装着を余儀なくされ、それに伴い発声機能を喪失し、言語的コミュニケーションが困難となり生活の質が低下する可能性があります。そこで、筋ジストロフィーで気管切開術および人工呼吸器装着した患者に「発声補助装置」を導入し、言語的コミュニケーションを図れるまで発声が可能になった事例を紹介しました。事例では、患者の生命維持装置である人工呼吸器に「発声補助装置」という新しい機器を接続して使用するため、安全な運用方法および多職種連携、患者へ

の説明や指導の実際等について発表しました。また、最後に発声が可能になった患者本人の思いを会場の皆様へお伝えすることができ、自らの声で思いを伝えることの大切さを実感していただけたと思います。

気管切開術を行う上で、発声が困難になることも、手術を行う上では争点の一つとなっている現状もあります。発声補助装置開発により、気管切開術後も発声を継続して行える可能性があり、患者にとっての希望の一つになるのではないかと実感しています。そして、自分の声で思いを相手に伝えたり、大好きな歌を歌い、声を出して笑ったりすることは患者の療養生活の質の向上に繋がっていくことが改めて分かりました。今後も自己研鑽に努めながらこの取り組みを続けていき、少しでも患者の療養生活の質の向上に繋がるよう支援していきたいと思っています。

最後になりますが、発表を通して他施設の参加者の皆様方とディスカッションできたことは自分自身にとっても貴重な体験となりました。このような貴重な機会を与えてくださった病院関係者、学会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



病棟・部門紹介 No.17

南2病棟のご紹介

南2病棟師長
石井 美香子

南2病棟は、筋ジストロフィー、ALS、脊髄小脳変性症といった神経筋難病の患者さんが療養を目的として入院をされている病棟です。また、地域との連携を図り、神経筋難病の患者さんが自宅での療養生活が続けられるようレスパイト入院を受け入れています。

病棟内は、患者さんがゆったり生活できるような広い空間が広がり、太陽の光が差し込んでいます。入院生活でも季節を感じられるような四季折々の飾り付けをしたり、カラオケ大会で点数を競い合ったり、自身で作成した歌や絵を芸術祭で披露したりなど患者さん同士の交流もなされています。

患者さんは、疾患の特徴から症状の進行にともない日常生活動作が低下し、気管切開や人工呼吸器装着、胃瘻による経管栄養など医療依存度の高い患者さんも療養されています。そのため、安全な呼吸管理を第一に清潔な空間づくり、適切な栄養管理、移動や排泄、清潔など、ひとりひとりの患者さんが快適に療養生活を送れるよう支援しています。さらに様々な思いを持ちながらも意思表示ができない患者さんもいらっしゃいます。私たちは患者さんの小さな変化に気づき、個々に合わせたコミュニケーション方法を活用することで安心した看護が提供できるように関わっています。また中には、気管切開患者へ「発声補助装置」を導入し、言語的コミュニケーションを図れるまでの発声を可能にする取り組みを多職種で連携して行っています。導入事例は4例ですが自分自身の「声」で意思や感情、考えを伝えるということは患者さんにとって療養生活の質が向上することに繋がっています。

医療ケアや日常生活援助まで多岐にわたって患者さんと関わっていますが、今後も医師及び看護師、児童指導員、保育士、リハビリテーション科、栄養管理室、臨床工学技士スタッフ等多職種と連携し患者さんの持つ機能を引き出し、その人らしく生き生きとした療養生活を送れるよう支援していききたいと思います。

新型コロナウイルス感染症流行で、患者さんの外出制限、家族の面会制限などが続いています。患者さん、ご家族の安心が得られるように、病棟スタッフ一同、患者さんの思いを大切に日々笑顔で支援していくことを心がけています。



開放型病院登録医紹介

橋本整形外科内科

院長／橋本 裕一

熊本県熊本市北区改寄町2380-5

TEL 096-272-0052 FAX 096-272-0056

診療内容／整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、外科、内科

診療時間／ 9:00～12:30

14:00～18:00 (水・土曜日は午後休診)



診察日	月	火	水	木	金	土	日・祝
9時00分～12時30分	○	○	○	○	○	○	×
14時00分～18時00分	○	○	×	○	○	×	×

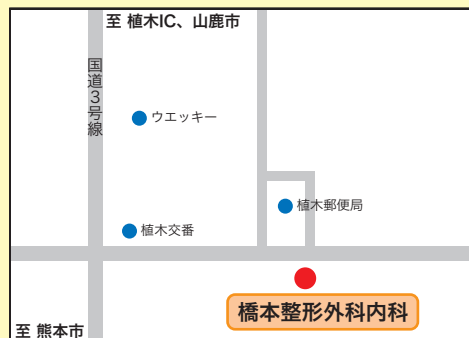
※リハビリは午前8:30、午後は13:30からの開始となります。

橋本整形外科内科 橋本院長先生には、平成23年8月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さんをご紹介いただいております。

熊本市北区に位置し、近隣病院や診療所、介護施設と連携を図り、急性疾患慢性疾患の対応を行ってまいります。

その他、一人一人の患者様の状態に応じて、リハビリにも力を入れてまいります。

また、入院施設があり、有床診療所6床、介護医療院12床の体制で診療をさせていただきます。



病棟・部門紹介 No.18

治験管理室のご紹介

治験主任
大嶋 宏美

いつも治験業務にご協力いただきありがとうございます。
治験管理室の場所は、管理棟西側 2 階にあり、新しくできた熊本再春医療センター前駅や緑の木々を見渡すことができます。春には部屋に居ながら桜を見ることもできます。このような素晴らしい環境で勤務できることに感謝しています。

治験管理室の構成は、治験管理室長（臨床研究部長）、治験管理室事務局長（薬剤部長）、臨床コーディネーター（薬剤師・看護師）、事務局員（業務班長、治験事務員）です。主な業務内容は、院内において実施される治験（「製造販売後臨床試験」を含む）および受託研究の実施上必要な事務局業務（治験依頼者による直接閲覧、モニタリング・監査への対応、記録の保存等）、CRC 業務（被験者に対するコーディネート、治験責任医師・治験分担医師・治験協力者等に対する支援業務）、治験薬・治験機器の管理に関する業務、治験審査委員会（委員長：副院長、副委員長：統括診療部長）の事務局業務などです。

そもそも治験とは何かご存じでしょうか。製薬会社が開発中の物質をお薬として病院で使用したり、薬局で販売できるようにするためには厚生労働大臣の承認を取得することが法律で定められています。人における試験を一般に「臨床試験」といいますが、この承認を得るための臨床試験を特に「治験」といいます。治験から得られる情報が将来その病気に対しより良いものになることが期待されます。また、治療薬が開発されていない病気に対しては治療の選択肢の一つとなりますし、既に治療薬が開発されている病気に対しては治療の選択肢が広がります。検査等に決まりがあり関わってくださるスタッフの方にはご負担をおかけしますが、他の外来予約患者様と同様にご対応下さい。

現在は、小児科（てんかん 3 課題）、脳神経内科（ALS 5 課題・パーキンソン病等 1 課題）呼吸器内科（肺炎 1 課題・気管支拡張症 1 課題）で全 11 課題の治験を行っています。8 月には ALS を対象とした治験において国内で 1 番にエントリーすることができました。スピードを競うものではありませんが、脳神経内科の先生方が診療の合間を縫って、積極的にトレーニングやスタートアップミーティングに参加して下さったおかげです。小児科、呼吸器内科の治験もほぼ 100% 実施できています。治験参加中の患者様の電子カルテには、治験情報を掲載しています。ご不明な点やご意見等は遠慮なくご連絡ください。



開放型病院登録医紹介

西村クリニック

院長／西村 八郎

熊本県熊本市北区武蔵ヶ丘 9 丁目 3-1 1

TEL 096-337-6600 FAX 096-337-6620

診療内容／内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、胃腸内科

診療時間／ 9:00～12:00

14:00～18:00（木・土曜日は午後休診）



診察日	月	火	水	木	金	土	日・祝
9時00分～12時30分	○	○	○	○	○	○	×
14時00分～18時00分	○	○	○	×	○	×	×

西村クリニック 西村院長先生には、平成23年8月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さんをご紹介いただいております。

熊本市北区に位置し、内科・外科を中心に、糖尿病をはじめとした生活習慣病、気管支喘息など、多岐にわたり診療をされておられます。胃・大腸の内視鏡、腹部エコーの検査を行っておられます。

また、男性医師、女性医師の2人体制で診療をされておられます。



令和4年度 看護実践力向上推進委員会の活動について

～認定看護師及び特定行為研修修了看護師によるリソースナースラウンド～

看護実践力向上推進委員会 委員長 藤本 亮一

当院には、日本看護協会より認定された認定看護師及び特定行為研修修了看護師 11 名にて構成される看護実践力向上推進委員会があり、日々、各自の専門性をもって活動をしています。本年度は、病院全体の看護師の看護実践力向上と、看護実践力向上推進委員会メンバー（以下、メンバーと称します）の活動をアピールできる場を設けることを目的とし、毎月第2火曜日の15時30分～16時までの間、「認定看護師及び特定行為研修修了看護師によるリソースナースラウンド（以下、ラウンドと称します）」を開始しました。本ラウンド実施後、半年が経過しましたが、ラウンドの認知度も上がり、病棟スタッフから各メンバーに対する相談件数が増えています。11月からは、新たに日本難病看護学会認定の難病看護師6名と、日本重症心身障害福祉協会認定の重症心身障害看護師2名を迎え入れ、活動の幅を広げていく予定です。

各メンバーの紹介については当院ホームページのメニュー欄より看護部を選択していただき、看護部の特色のページを開きますとご覧いただけます。

今回は、認知症看護認定看護師と緩和ケア認定看護師の活動についてご紹介させていただきます。活動についてご興味がある方は、是非、お気軽にお声かけください。



写真①

認知症看護認定看護師 藤本 亮一(写真①右) 永廣 ひとみ(写真①左)

近年、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ご家族の面会制限や外出制限を余儀なくされ、患者さんにかかる入院生活はストレスフルな状況にあります。その中でも認知症高齢者の方においては、入院に伴う著しい環境の変化やご家族と会えない寂しさから、孤独感・不安感がいっぱいとなり「せん妄」を発症する方が少なくありません。「せん妄」は、病気と誤解されることが多いのですが、脳がうまく働かなくなり、話す言葉や振る舞いに一時的な混乱が見られる状態です。いったん「せん妄」を発症して

しまうと元々の入院治療計画が進まなくなり、入院生活が長期化してしまうこともあるため、是非とも予防的な対応を強化したいと考えています。

私たちは認知症看護認定看護師として認知症高齢者の方々が入院生活に早期に慣れ、安心した環境を提供できる様コミュニケーションを図り、ケア内容を統一できるようにサポートを強化しています。また、認知症高齢者の方々が在宅へ戻る際や施設入所に向けて、ご本人が自分らしく、生活しやすい環境を整えるためにはどうすれば良いか、多職種の話し合いに参加しています（写真②）。認知症高齢者の方々に対するケアを充実させるためには、ご本人の日頃の生活をよく知るご家族の方々からの情報がとても重要となります。機会がございましたら、お話を伺わせていただくこともあるかと思っておりますので、その節は、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



写真②



写真①

緩和ケア認定看護師 西真 紗美(写真①中央)

緩和ケアとは、病気による体のつらさだけでなく、不安や気分の落ち込みといった精神的なつらさや、経済面や家族のことといった社会的なつらさなどに対しても適切な治療やケアが行われることで、患者さん、ご家族がよりよく過ごすためのアプローチです。緩和ケアというと何も治療ができなくなった時、亡くなる前といったイメージが強いかもしれませんが、症状を和らげ、安心して治療を受けるためにも病気の診断を受けたときから開始することが望ましいとされています。また、緩和ケアはがん

といった生命を脅かす疾患だけでなく慢性疾患を持つ患者さん、ご家族も対象となります。最近では心不全や神経疾患、慢性呼吸器疾患についても緩和ケアの必要性が訴えられています。

病気になると様々な問題を抱えることになり、ひとりでは解決できないことも多くあると思います。また、何がその人にとって「よりよく過ごす」ことになるかは多種多様で、すべてに当てはまる正解というものはありません。だからこそ多角的なアプローチが必要となり、多職種での介入が重要となります。私は緩和ケア認定看護師として、当院の緩和ケアチームの一員として、患者さん、ご家族がどう過ごしたいと思っているのか、大切にしたいことは何かを軸に多職種でアプローチ方法を検討（写真②）し、スタッフとともに介入を行っています。緩和ケアで困ったことがあれば一緒に考えていきたいと思っておりますので、ぜひご相談ください。



写真②多職種検討会の様子

2021年4月から常勤医が増員となり、外科4人体制で診療にあたっています。

消化器・内分泌臓器の悪性および良性疾患から腹部救急疾患までの範囲にわたって、外科手術を行っています。

◆スタッフ紹介

- 外科部長 大原 千年 (昭和60年卒)
- 消化器外科部長 沖野 哲也 (平成2年卒)
- 消化器外科医長 富樫 陽彦 (平成13年卒)
- 消化器外科医師 園田 明莉 (平成22年卒)

◆ガイドラインに即した標準治療

各疾患の「治療ガイドライン」に準拠した標準治療を基本とし、進行度などに応じて手術、内視鏡治療、化学療法が選択されます。

◆個々人に合わせた適切な治療

「治療ガイドライン」を基本とした上で、個々人の年齢・並存疾患・生活状況などを考慮しながら御本人・御家族とともに考えて、適切な治療を行っています。

◆拡大手術

周囲の臓器に浸潤している進行癌や、転移のある大腸癌でも、根治性が得られる場合は他の臓器も含めて摘出する拡大手術を行っています。

◆低侵襲手術

傷が小さいため術後の痛みが少なく、早期の社会復帰が可能となる胸腔鏡・腹腔鏡下の低侵襲手術を積極的に行っています。

◆診療内容

手術	食道 胃・十二指腸 大腸 肛門 肝臓 胆道 膵臓 脾臓 ヘルニア 乳腺・内分泌 救急疾患	食道癌 食道裂孔ヘルニア 食道アカラシア 食道憩室症など 胃癌 十二指腸癌 胃・十二指腸腫瘍など 結腸癌 直腸癌 直腸脱など 痔疾患 肛門狭窄症など 肝臓癌 (原発性肝癌・転移性肝癌) 肝良性腫瘍 巨大肝嚢胞など 胆管癌 胆嚢癌 十二指腸乳頭部癌 胆石・総胆管結石症など 膵癌 膵腫瘍 慢性膵炎など 脾腫瘍など 鼠径・大腿・閉鎖孔・傍ストーマ・腹壁癒痕ヘルニアなど 乳癌 甲状腺癌など 腹膜炎 腸閉塞 消化管穿孔 急性胆嚢炎 急性虫垂炎など
内視鏡治療	ポリープ切除 乳頭切開 (EST/ERBD) 胃瘻造設術など	
化学療法	切除不能進行再発癌の化学療法 術前・術後補助化学療法など	



◆機能温存手術

肛門に近い直腸癌の場合、従来は癌とともに肛門を取り除き、永久的な人工肛門を造設していました。肛門の筋肉を一部温存して癌を取り除くことにより自然肛門を温存して、可能な限り人工肛門を回避するよう努めています。

◆術後のフォローアップ

入院中・退院後の食事や薬に対する不安、運動量の問題など抱える不安に対し、多職種が連携を図りながら、多方面の専門的立場から手助けを行っています。また、癌手術後は、癌の再発がないかを検査する必要があるため、治療ガイドラインに基づき消化器癌の場合術後5年間は定期的に外来で診て参ります。

今後とも、地域に根ざし安心して治療をお任せいただける診療科となるよう努めて参ります。

『新しい駅が完成しました』

業務班長 廣瀬 浩二

熊本電鉄再春医療センター前駅 (KD18) は、昭和40年に再春荘前駅として開業以来57年間、多くの方に利用されてきました。

その駅がこの度、合志市の御代志地区土地区画整理事業の一環で移転する事となり、去る10月10日(月)、熊本電鉄御代志駅とともに無事移転開業を迎えることが出来ました。



工事期間中は市道の付け替え工事も重なり、駅を利用する方は半年もの間、迂回路を使用することになりましたが、これは文字とおりの迂回となり、あまりの回り道に、迂回路の途中で「病院の入口はどこですか?」と聞かれることもありました。

新しい駅は慰霊碑の近くに立地し、少し病院の建物に近づく形になり、病院に来られる方の利便性も向上する事となりました。

10月10日の新駅開業日は祝日となっており、前日の雨模様から打って変わり、さわやかな秋晴れの中、始発電車が新しい再春医療センター駅に到着しました。最初の利用者は通勤に利用している職員の降車と、御代志駅迄の記念乗車を行う方だったようです。

また、新しい御代志駅では、熊本県や合志市、近隣の方を招いての式典も行われ、式典終了後は保育園児が記念のくまモンラッピング電車に乗車するというイベントもありました。

新しい再春医療センター前駅、新しい御代志駅と共に旧駅同様に長く皆様に愛されることを願っております。

さて、駅の移転は完了しましたが、病院においては正門周辺の駐車場整備工事が続いております。

病院前の市道についても、現在仮設道路となっておりますが、今年度一杯で付け替え工事が完了し、現在のすきや近辺に新しい交差点ができる事になります。

国道387号も作業中の拡幅工事によって右左折による渋滞緩和も期待できるようです。

さらには新再春医療センター前駅から御代志駅周辺にかけ、合志市の主導による商業施設誘致も計画されており、将来的に病院前の様相は一変することになります。

今後もしばらくは病院周辺での工事が続くことになり、当院に来られる方にもご迷惑をお掛けするかとと思いますがご協力いただきますようお願いいたします。

